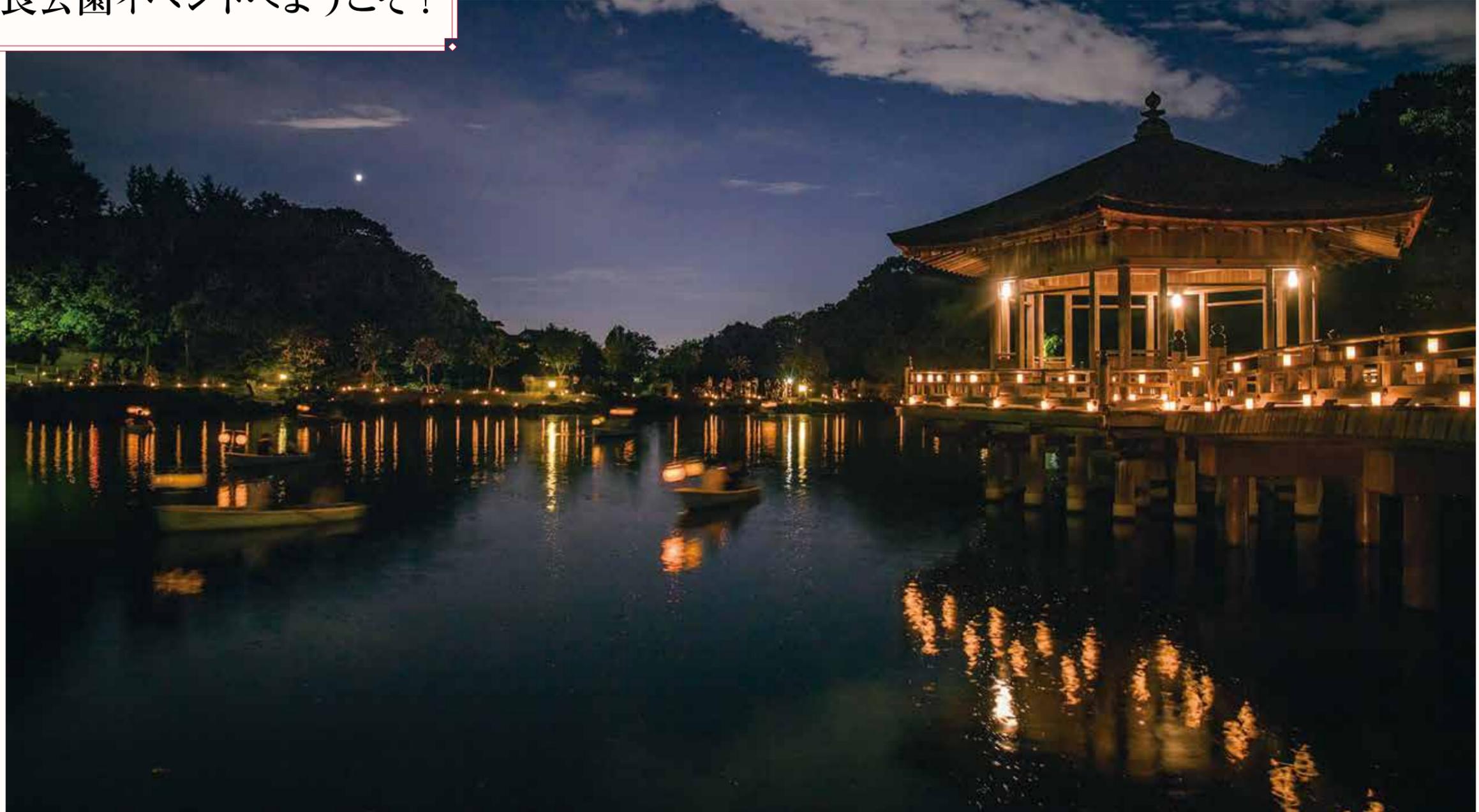


夏の奈良公園イベントへようこそ!



奈良公園や、その周辺地域では、毎年8月初旬から9月半ばにかけて、夏を彩る3つのイベントが開催される。今年25周年を迎える「なら燈花会」の思いや、それぞれのイベントについてお伝えする。

夏の奈良公園の夜を楽しむイベントとして最初に封切られるのは、「なら燈花会」。毎年8月5日～14日に開催している。例年、興福寺・東大寺（13日・14日のみ）・春日大社（14日のみ）と、浮雲園地・浅茅ヶ原・浮見堂・猿沢池の全7会場で実施され、会場内では、1万を超えるロウソクに明かりを灯す。奈良公園一帯に明かりの花が咲き誇る情景は、すっかり奈良の夏の風物詩として定着し、「なら燈花会」を目的に訪れる観光客も多い。今年25周年を迎える。

「なら燈花会」が終了したあとの8月の後半に活気を生もうと2017年に誕生したのが、「ぐれーとさまあーふえすた☆ならまち遊歩」だ。2023年の実施期間は8月19日（土）～27日（日）の9日間で、「ならまち」エリアで開催される。猿沢池や開催エリア内は提灯でライトアップ。「楽座手形」（500円）を購入すれば、開催エリア内の楽座参加店で様々な特典を受けることができ、お得に町を巡ることができる。周辺のお店が参加しているので、イベ

ントをきっかけに新たなお気に入りの店を開拓するのも楽しい。

また、「きたまちという」は2021年から始まったばかりの新たなイベントだ。こちらは近鉄奈良駅の北側のエリア「奈良きたまち」で開催される。実施期間は、ならまち遊歩が終わった後、9月9日（土）～9月15日（金）の1週間。町の住人や、きたまちに思いのある方が作ったカラフルな「というランタン」が夜の奈良公園バスターミナルや東大寺転害門のほか、今年新たに吉城園にも灯される。日中はカレーのイベントや「という市」などのマルシェイベント、きたまちのお店などが独自に企画する「という企画」なども実施され、奈良きたまちが賑わう。ひと夏を通して、奈良公園やその周辺の地域を楽しみ尽くすイベントが盛りだくさん。この夏、各イベントを通じて、まだ知らない地域の魅力を発見しに、出かけてみては。

なら燈花会 25周年



8月5日(土)~14日(月)

奈良公園一帯で開催



— 奈良の夏といえば燈花会ですね

燈花会は、夏の閑散期に奈良を盛り上げるためのイベントとして始まりました。夏に地元の方に向けたお祭りもありましたが、全国から人が来るお祭りをしたいと「奈良の新しい祭りを考える会」という会ができて、観光事業者や県、市などのメンバーで始まりました。

閑散期の観光誘客が目的で始まりましたが、燈花会の理念として「火」をとっても大切にしています。奈良には二月堂の修二会や、春日大社の中元万燈籠、大文字焼き等、火に手を合わせる行事がたくさんあるんです。燈花会は初日に春日大社さんに火をいただきに行っています。三社寺の宮司さんや貫主さんたちにも来ていただいて、奈良公園で灯す火入れ式を行います。燈花会はそんな風に社寺さんにもご協力をいただいた上で、火の催事として行おうという思いがすっかりとあります。

— 人が大勢集まる催事なので、コロナ禍の最中も大変だったのでは

2020年は通常開催は無理でした

が、燈花会の火は消してはいけないという皆の思いで、オンラインでの動画配信も行いました。その際、社寺さんからも多くのご協力やアドバイスをいただきました。2021年は入場制限をして開催する予定でしたが、直前に感染者数が急激に増え、前日に中止発表となりました。断腸の思いでしたが、感染者が増えてその後燈花会がでなくなったら困りますからね。昨年

はようやく通常開催ができました。

— コロナ禍を乗り越え、今年は25周年のことですが、どんな思いがありますか

何十周年の節目は大切ですが、5周年って必要なのか?と思っていました。でも、次の時代に繋いでいく事を考えると、10年だと人が入れ替わって言葉が繋がらない。今は最初から頑張っていた方たちも健在なので、25周年、みんなでもう一度しっかり汗をかいて30周年に向けてがんばろうと。しっかりと世代交代をして繋げていく5年にしないとダメですね。そう考えると、25周年は重要だと最近はとても思います。

何のためにやっているのか、そこを知っておかないと燈花会が燈花会じゃな

くなってしまいます。未来につながるために、仲間を増やしていくのが僕たちの役目でもあります。サポーターの方にも毎年来ていただきたいですね。

今年は紙のガイドブックだけではなく、新たにスマホで会場の混雑状況などが見られる仕組みも考えています。25周年記念事業として生駒市の「高山竹あかり」さんにもご協力いただき、竹のオブジェでの点灯も予定しています。

— 今年もなら燈花会、楽しみです

奈良公園という明かりのない空間の間に光を灯すのが燈花会です。さらさらと派手にするのはなく、奈良公園の闇を楽しんで欲しいですね。

— ありがとうございます



なら燈花会 HP
<https://www.toukae.jp/>



きたまちいろいろ

て地域の情報を発信してきた。

そんなきたまちをゆつくり巡って楽しんでもらいたいイベントが、2021年から始まった「きたまちいろいろ」だ。

夜には、地域に住む人々や、きたまちに思いがある人々が思いを込めて作った「いろいろランタン」を点灯する。東大寺転害門前広場や奈良公園バスターミナル屋上のほか、今年は奈良



「奈良きたまち」は、近鉄奈良駅の北側のエリア一帯を指す。

今は住宅街のイメージが強いエリアだが、奈良時代に創建された東大寺に隣接し、鎌倉時代には刀鍛冶が住み、戦国時代には多聞山城が築かれ、室町時代には優れた風景を讃える「南都八景」の舞台となった。近代では明治時代の奈良女子大学旧本館や旧奈良監獄が国の重要文化財として指定されており、1300年間の様々な歴史資源や文化遺産が数多く残る、歴史のモザイクのようなエリアとなっている。

周辺では20年以上前から地域を盛り上げようと、「きたまち」という名称を地域の方たちで決め、親しみを込め



「楽座手形」(500円)を購入すると、ならまち遊歩の開催エリア内にある楽座参加店で、割引を受けたりプレゼントがあったりと、お得に楽しむことがたえが増すようだ。

毎年恒例の「ならまち楽座」では、池周辺をはじめ、開催エリア内で提灯によるライトアップを実施(雨天中止の場合あり)。猿沢池に夕方から浮かぶ提灯の明かりは、夕焼けにも映え、撮影に訪れる人たちも年々増えてきた。今年は提灯の数も増え、より一層見ごたえが増すようだ。

ならまち遊歩

「ならまち」は世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産でもある奈良時代創建の元興寺周辺一帯のこと。古都らしい細い道が基盤目状に交差し、江戸時代末期からの町家が残る風景の中に、個性的な店がそこかしこにあり、観光地としても人気のエリアだ。

「ぐれーとさまあーふえすた☆ならまち」は、もちいどの商店街や猿沢池周辺から南側のエリアで、各店舗も通常よりも営業時間を延長し、ならまちの夜を満喫できるようにした夏のイベントだ。

とができる。他にも毎年人気の狐面絵付け体験や、奈良まほろほソムリエ会のガイドによるならまちを巡るナイトツアー(要予約)、昨年も大好評だったクイズラリー、親子で楽しむ「ならまち伝統文化体験イベント」(事前予約制)、またコロナ禍で休止していたカクテルバーならまち遊歩も1日限定で、復活を予定している。

ぐれーとさまあーふえすた☆
ならまち遊歩

8月19日(土)~27日(日)
ならまちエリア一帯で開催



ならまち遊歩 HP
<https://naramachi-yuho.com/2023/>

公園内の日本庭園・吉城園も会場になる予定だ(9日、10日のみ)。

また今年も、10日(日)、11日(月)限定で奈良県庁前回廊でカレイイベントの開催も予定。昨年に引きつづき、昼は県庁前回廊やバスターミナルでのマルシェ、きたまちの店舗ではこの期間だけの独自メニューの提供やワークショップの開催、映画上映、早朝まち歩き企画など、きたまちを楽しみつくす、多くの企画が予定されている。

楽しみ方はまさに十人十色。1日通して欲張りに奈良きたまちを味わって欲しい。

きたまちいろいろ

9月9日(土)~15日(金)
きたまちエリア一帯で開催



きたまちいろいろ HP
<https://kitamachi-toiro.com/>